

003

被災当事者だからこそできる住民同士の「つながり直し」を通じた被災者支援

取組主体

特定非営利活動法人えひめ 311

従業員数

7人

想定災害

全般

実施地域

愛媛県

東日本大震災における被災経験を生かし、被災者目線による、地域に寄り添った支援の実施を通じて、被災後の住民同士の「つながり直し」に取り組んでいる。

1 取組の概要

被災当事者だからこそできること

- ・特定非営利活動法人えひめ 311 は、2011 年に発生した東日本大震災により愛媛県へ避難を余儀なくされた人々が中心となり結成された団体である。「災害によって亡くなる人をゼロにする」を目標として防災事業に取り組む同法人は、東日本大震災のような悲劇を二度と繰り返さないよう、減災社会の実現を目指している。
- ・被災当事者だからこそできる防災への取組として、被災体験の語り部活動や被災者・被災地支援を実施している。愛媛県内では年間を通じて様々な地域に出向き、学校や公民館などで被災体験を語り、防災を自分のこととして捉えてもらえるような取組を行っている。あわせて、被災地支援として、愛媛県の柑橘（かんきつ）の提供や炊き出し、イベント・交流会を開催している。

能登半島地震被災地での活動

- ・2024 年 1 月に発生した能登半島地震の被災地支援では、2 月 4 日に初めて能登半島へ出向き、東日本大震災の支援でつながりのある方を通じて、現地調査を行った。その結果を受けて、「復興までの道のりが長引くのではないかな。愛媛からできることを考えよう」と思い、同県内でボランティアを募り活動を開始した。同法人はこのボランティアチームを「能登半島地震被災者支援・チーム愛媛」と名付け、高校生から 70 代までの方々が参加し、9 月までに合計 10 回の活動を行った。
- ・主な活動拠点は石川県輪島市と七尾市であり、輪島市では、福祉避難所や診療所での炊き出し、近隣住民への柑橘を携えた訪問活動を実施し、七尾市中島地区では 7 月に地域住民と一緒に夕涼み会を開催した。どの活動においても住民同士の「つながり直し」を目標としており、企画を通じて住民同士の交流を促進している。



子どもに向けた支援活動



炊き出しの様子



七尾市における夕涼み会

2 取組のきっかけと想い

- ・同法人は、東日本大震災被災後に愛媛県へ避難した当事者が中心となって結成された。これらのメンバーは、もともと愛媛県出身であったり、親族が愛媛県に在住していたり、行政の受入支援が充実しているといった多様な理由から、愛媛県を避難先を選んだ人たちである。同法人のメンバーは、災害によって住民同士のつながりが断たれ、地域コミュニティが希薄化していくことの寂しさや不安を誰よりも知っている。そこで、地域のつながりを再び感じられる取組を通じて、自分たちが受けた支援を他の被災者に引き継ぎ、被災した方々へエールを送り続けたいという想いから、本取組を開始した。

3 取組の特徴（差別化した点、地域特性などで工夫した点等）

被災地との協働による企画の実現

- ・「被災した地域住民に負担をかけないように」と気を遣いながら準備を進めたが、結局は地域の方々の力を借りなければ実現に至らなかった。被災者も支援者も同じ目線でお互いが助け合い、協働しながら、それぞれの役割を持って、一つの企画を足並みそろえて実施することが大切であると感じた。

被災を経験したからこそ可能な支援

- ・被災者の方々は、「自分たちよりももっと大変な人がいる」と自分に対する被害を少なく見積もり、支援に対して遠慮がちで我慢をしている方が多い。また、「被災者だからかわいそう」と思われることに違和感を覚える方も多い。このような被災者特有の気持ちは我々が当事者だからこそよく分かる。このような当事者経験を踏まえて、例えば被災者を特別扱いしすぎないなど、支援活動の中での被災者とのコミュニケーションに生かしている。

愛媛県内における活動

- ・愛媛県民の防災意識啓発のために、県民向けに、被災地における支援活動の報告会や、被災地に行くスタディツアーなどの企画も実施している。

4 取組の効果

ボランティア側の防災意識の変化や向上

- ・愛媛県内からボランティアに参加したメンバーにとっても、被災地における活動が、いざというときの行動の練習になり、愛媛県で懸念される南海トラフ地震への備えにつながっている。

周囲の声

- ・「魚を食べたかったのよ。毎日魚を食べていたけど、港が液状化で漁ができないから、食べることができなくて…。だから本当にうれしい。なかなか家から出てこない人と久しぶりに話せた」（被災者）
- ・「災害が起きてから地域の行事がなくなり、地域住民同士のつながりが途切れそうになっていた。しかし、えひめ311の皆様が楽しめるイベントを開催してくれたおかげで皆と再会することができて、本当にうれしかった」（被災者）
- ・「初めて被災地に行きました。どれもこれも衝撃的です。私なんか何の役にも立たないと思ったけど、ありがとうと言われて、泣きそうになった。ここ被災地で感じたことを愛媛に持ち帰り、家族に災害の恐ろしさを伝えたい」（ボランティア参加者）

担当者の声

- ・私たちは、被災地での活動を通じて、人間同士の信頼関係の再構築、コミュニティの再建、そして人間の復興を目指しています。
- ・災害の種類は違っても、同じ被災者同士が助け合うことで、全てを話さなくても気持ちを受容し、共感できます。そんなピアなつながりこそが被災者支援には不可欠で、被災地の復興の下支えになると考えています。
- ・もし、このような私たちの想いに共感していただける方がいらっしゃいましたら、ぜひ一緒に取組を進めていきたいと思っています。

問合せ先

特定非営利活動法人えひめ 311
 法人番号：1500005007063
 電話番号：070-5515-2217 FAX：089-993-8339
 E-Mail：ehime311@yahoo.co.jp URL：http://ehime311.official.jp/

動画



サイト URL

